

2026 年 6 月 4 日
第一工業製薬株式会社

2026 年 3 月期通期 決算説明会 主な質疑応答
(開催日：2026 年 6 月 3 日 場所：当社東京本社ミーティングルーム/WEB 配信)

- Q1：設備投資額 89 億円の内訳を教えてください。
- A1：低誘電樹脂の設備増強および LiB 材料の新規プラント建設を主としている。低誘電樹脂については既に生産キャパシティがフル稼働となっており、新規プラント建設も検討しているが、ここには含まれていない。正式に投資決定した際には改めて公表する。
- Q2：電子・情報セグメントの今期業績予想は微増にとどまっているが、低誘電樹脂の需要は大きく拡大しない見通しか。
- A2：市場は引き続き伸長しているものの、生産キャパシティが不足している状況である。業績予想は現実的に生産可能な数量を前提としており、今期は設備増強による効果は織り込んでいない。今後も生産能力を向上させ、成長機会の取り込みを目指していく。
- Q3：低誘電樹脂は生産キャパシティ不足による失地リスクはあるか。
- A3：一部では機会損失が生じる可能性も認識しているが、収益性の高いハイエンド製品を優先して供給する方針であり、利益成長を重視した生産体制を構築している。
- Q4：LiB 材料の販売先が増加する背景は、シリコン負極電池の採用拡大が要因か。
- A4：当初の予定に対し、足元ではメモリ不足の影響等により市場環境は変動している。最終用途や価格帯の動向には不透明な部分はあるものの、収益性の高い領域への開発を引き続き強化していく。
- Q5：中東情勢による影響を業績予想に織り込んでいないにもかかわらず、下半期の業績予想を控えめに設定している理由を教えてください。
- A5：例年、下半期は業績が伸長する傾向にあるが、市場環境の不透明感を踏まえて設定している。
- Q6：価格改定の進捗状況を教えてください。
- A6：早期に価格改定を打ち出し交渉を開始したため、現時点で達成率は約 7 割となっている。低誘電樹脂および LiB 材料については、ほぼ 100%に近い水準で価格転嫁が進んでいる。

以上